

## ディスペンセーション、教会、携挙、そして宇宙の破壊

<https://ichthys.com/mail-Dispensations-Church.htm>

からの抜粋翻訳

### 質問 #1

ロバートさん、こんにちは。

モーリス・ロイド (Maurice Lloyd) と C.H. ウェルチ (Charles H. Welch) という人たちをご存じでしょうか？ もしご存じでしたら、教会は使徒 28 章 28 節の後に始まったという見解に同意されますか。そして、エペソ書、コロサイ書、ピリピ書、第一・第二テモテ、テトス書においてパウロに啓示された「奥義」とは、実際にはこのことを指しているのでしょうか。彼らはこれらを「獄中書簡」と呼び、今日の教会に本当に関係するのはそれらだけだと主張しています。私は、この立場を教える教師たちの中に、ギャップ説 (Gap Theory) を強く支持している人がいることにも気づきました。モーリス・ロイドは非常に高齢か、すでに亡くなっていると思います (彼は驚くほど率直な人物だと思います)。彼はギャップ説について確信していたわけではないようですが、否定もしませんでした。C.H. ウェルチは完全に支持しており、このディスペンセーションを教える他の教師たちも同様です。

これは決して読みやすい内容ではなく、正直なところ私は完全に混乱させられました。私は以前から、既成の教派が正しくなく、真理を宣べ伝えていないことには気づいていました。ですから、彼らの聖書区分の理解には確かに筋が通っているように思えます。しかし、それが正しいことを意味するわけではありません。ただ、彼らの地獄に関する理解は奇妙です。しかし、イエスご自身が地獄について何度も、それが墓ではなく実在する場所であるかのように語られた聖句を考えると、彼らがそう考える理由も理解できます。

また、ディスペンセーション主義そのものはよく整理されているように見えます。しかし私はその教理を混乱したものと感じています (混乱は神から来るものではありません)。そして彼らの聖書区分の教理は非常に急進的です。この件について、あなたがどう考えているのかぜひ知りたいのです。聖書研究をされてきた中で、こうした考え方に会ったことがないとは思えません。また、あなたの教えも正しく聖書を区分することに関わっているはずですから、この話題は初めてではないと思います。

私は挑戦されること自体は構いません (あなたの著作はいつも私を挑戦させます)。しかし、混乱させられるのは苦手なのです。

私たちのすばらしい主の御名にあって、

### 返信 #1:

あなたが挙げられたお二人については、実は私はよく知りません (ですから、彼らが天国や地獄について何を教えているのかについても、特にコメントできません)。もっと

も、私は福音主義の世界で流行しているさまざまな潮流を深く追いかけているわけではなく、自分自身の務めに集中する傾向があります。

ご質問についてですが、教会は非常にしばしば、むしろ通常そうと言ってよいほど誤解されています。教会は実際にはアダムとエバから始まっています(なぜなら、主が戻られる時、私たちは皆ともに主を迎えるためによみがえるからです。[「来たる艱難期 第5部 V.『小羊の花嫁の復活』](#)をご覧ください)。しかし現在の時代を「教会時代」と呼ぶことは正しいことです。なぜなら、この二千年間(急速に終わりに近づいています)は、異邦人たちがキリストの身体に大規模に加えられる時代だからです。私は、使徒行伝 28 章を教会の始まりとしたい人々の考えの背景には、この点があるのだらうと思います。主の集会、すなわち教会が満たされていく過程であり、この過程は私たちの時代における聖霊の特別な働きによって大いに助けられ、加速されています。この後者の点のために、多くの保守的神学者たちは教会の始まりを使徒行伝のペンテコステに置いています。新しい恵みの時代の始まりという意味では、それも問題ありません。しかし、私が見解に少し異議を唱える主な理由は、それが「教会」と「イスラエル」を対立させてしまうことです。実際、多くのクリスチャンは、この二つが同じキリストの身体、同じキリストの花嫁の一部であることを知ると驚くでしょう。しかし考えてみれば、パウロがユダヤ人であり、また人性においてイエスご自身もユダヤ人であるのに、彼らが「イスラエルではない」と言う方がよほど不合理です。そしてもちろん、すべての使徒たち、聖書を書いたすべての著者たちはユダヤ人でした(私の考えではルカもそうです。[ローマ 16 章 21 節](#)の「ルキオ」は「ルカ」の別形と考えられます)。さらに論じることにはできませんが、要するに、使徒時代に始まったのは、神の恵みが分配される方法における劇的に新しい時代であり、また異邦人に対して救いの計画が広く開かれる時代でした(実践面においてです。原則としては、神の救いは常に、それを望むすべての人に開かれていましたし、人類史が続く限りそうであり続けます)。この変化のもう一つの大きな側面は、影から実体への移行です。イエスが肉体を取って来られたので、今や私たちは主を顔と顔を合わせて見ることができます。そのため、律法の影であった儀式は時代遅れとなり、それどころか、それを続けることはイエスの犠牲が現実ではなかった、あるいは不十分であったことを示唆するため、神にとって不快なものとなりました。これを明らかにすることが、ヘブル書の主な目的です。「奥義」についてですが、これはこれらの事柄を整理する上でのもう一つの大きな問題です。この奥義とは本質的に、メシヤが肉体を取って来られ、贖いを成し遂げられたことによって、神が信者の共同体をイスラエルを越えて大きく広げられるという事実にあります。約二千年にわたり、異邦人の不信仰の海の中で、ユダヤ人の残された者がほぼ二千年にわたって孤立した状態にあったことを考えると、これは確かに予想外の展開でした(もともと、ヤコブが認めているように、預言的な前兆が全くなかったわけではありません。[使徒行伝 15 章](#)

[13 節以下](#))。したがって、キリストが、しかも異邦人である私たちの内におられるという現実こそが、教会の予想外で十分に理解されていない「奥義」なのです。すなわち、主がこの世に来られ十字架で死なれる以前には想像もできなかった民族と人数にまで、キリストの身体における救いの特権が広げられたことです。しかし、ユダヤ人信者は今も存在し、これからも存在し続けます。ですから起きたことは、本質的な種類の変化ではなく、割合の一時的な逆転にすぎません。さらなる情報については、以下をご参照ください<「サタンの反乱 第五部 から」>:

[イスラエルの独自性](#)

[教会](#)

[奥義](#)

[花嫁](#)

上で触れましたが、もう少し説明が必要なのは、あなたが言及されたディスペンセーションの問題です。もしディスペンセーションを、その時代に属する人々という観点から考えるなら、使徒行伝 28 章の「私は異邦人のところへ行く」という出来事を基準に区切ろうとする考え方にも、一応の論理はあります。しかし、これもまた広く誤解されている教理です。スコフィールドと、その後続いた多くの立派な教師たちは、ディスペンセーションの重要性をやや強調しすぎました。そしてそれが、聖書が実際には決してしていない形で、教会とイスラエルを分断するという問題に寄与してしまいました。私たちは皆「真のイスラエル」であり、真のイスラエルこそ私たちの本質です。厳密に聖書的な観点から言えば、ディスペンセーションとは、神がご自身の恵みを分配する方法によって区分される時代です。したがって、イスラエルのディスペンセーションと教会のディスペンセーションの違いは、その時代の救われた人々に永遠的な差があることではなく、神の真理がどのように伝達されるかという点にあります。イスラエルの時代には、律法とその象徴体系、そして預言の賜物が真理を教える役割を担いました。教会時代には、完成した聖書と聖霊の強化された内住の働きが霊的養いを提供しています。しかし鍵となるのは、「ディスペンセーション」を意味するギリシヤ語 oikonomia(オイコミア)です([エペソ 1 章 10 節](#), [3 章 2 節](#), [3 章 9 節](#); [コロサイ 1 章 25 節](#); [第一テモテ 1 章 4 節](#))。パウロは自らを、そのオイコミアに仕える diakonos(ディアコノス)、すなわち管理人であると言っています([コロサイ 1 章 25 節](#))。この語の同義語が oikonomos(オイコノモス)であり、これも神の真理を分配する者を意味します([第一コリント 4 章 1 節](#); [テトス 1 章 7 節](#); [第一ペテロ 4 章 10 節](#))。前者には「economics(経済)」という語の由来を見ることができます(本来は家の管理を意味します。ここでは「私たちは神の家である」という意味です)。後者には「deacon(執事)」という語の由来を見ることができます。ここで描かれているのは、神の家族が物質的な食物ではなく霊的な食物によって養われる姿です。そして、その供給の手段と方法が、イスラエル時代の

前・最中・後で異なっているのです。私が強調したい重要な点は、聖書がイスラエルと教会をディスペンセーションの観点から区別するとき、その本当の違いは養われる人々の違い**ではなく**、救いと霊的成長に必要な真理が各時代においてどのような仕組みで供給されるかの違いにある、ということです。

以下もご参照ください。

[人類史における五つのディスペンセーション](#) (The Five Dispensations of Human History)

[ディスペンセーション](#) (来たる艱難期第 2 部 A)

[The Scofield Reference Bible](#) (スコフィールド注解聖書)

[Dispensations, Covenants, Israel and the Church I](#)

[Dispensations, Covenants, Israel and the Church II](#)

私たちのすべての必要を満たしてくださる主イエス・キリストにあって、  
ボブ・L・ルギンビル